SHOGAKUKAN BONNE IMAGE

白土三平の世界

A Collection of
SANPEI SHIRATO

小学館

A Collection of
SANPEI SHIRATO

雑誌 64411−3

680yen

カムイ　1966年　『ガロ』1月号

勉強会　1965年　『ガロ』10月号

犂（すき）　1965年　『ガロ』2月号

断　首　　1965年　『ガロ』5月号

長柄一族　　1965年　『ガロ』7月号

謀　略　　1965年　『ガロ』4月号

山丈（やまじょう）　1965年　『ガロ』１月号

百 姓　　1965年　『ガロ』３月号

仁太夫（にだゆう）　1966年　『ガロ』４月号

降雪　1965年　『ガロ』6月号

追尾（ついび）　1965年　『ガロ』 9月号

変移抜刀霞斬り（へんいばっとうかすみぎり）　1965年　『ガロ』11月号

発芽　1966年「ガロ」6月号

一　揆(き)　　1966年　『ガロ』5月号

百姓魂　　1966年　『ガロ』２月号

襲　撃　　1965年　『ガロ』12月号

小六（ころく）　1966年　『ガロ』8月号

抜忍　1966年　『ガロ』7月号

失 意　　1967年　『ガロ』 3 月号

飢餓　1967年『ガロ』1月号

武　士　　1967年「ガロ」9月号

晒刑　1966年　『ガロ』11月号

鮫（さめ）　1971年　『ガロ』7月号

片　目　　1964年　『ガロ』12月号

白オオカミ　1965年　『ガロ』8月号

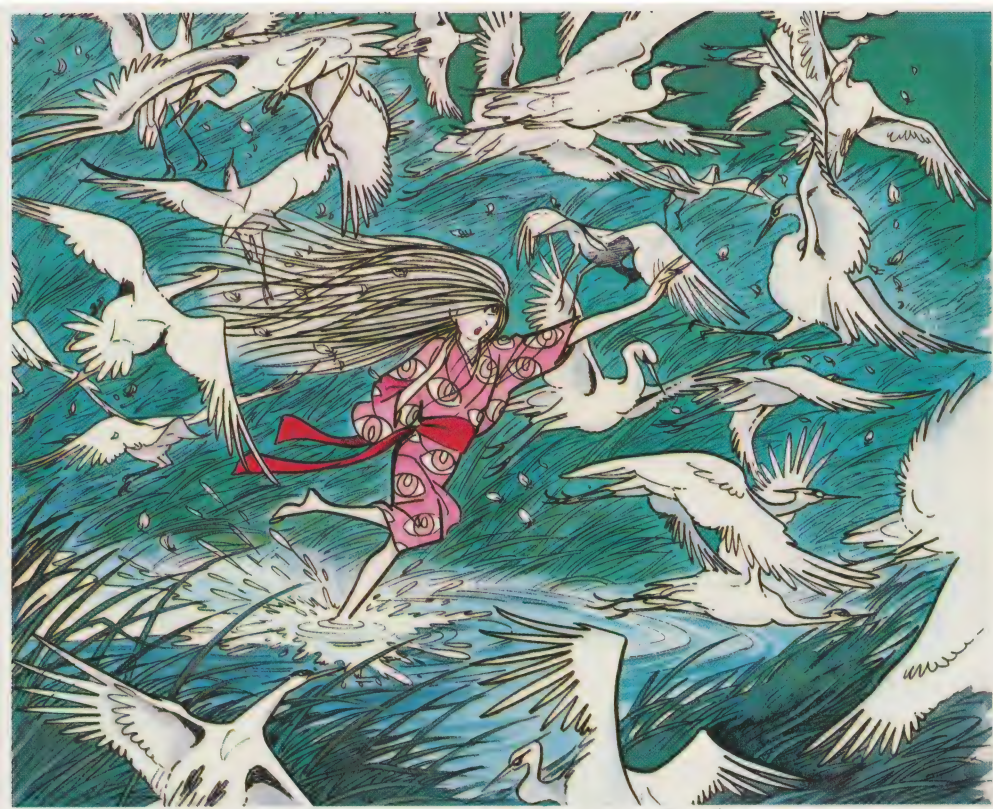
凶　作　　1967年　『ガロ』６月号

蔵六（ぞうろく）　1967年　『ガロ』 7月号

共鳴り　1970年　『ガロ』3月号

抵　抗　　1967年　『ガロ』5月号

誕　生　　1967年　『ガロ』2月号

糧（かて）　1968年　『ガロ』３月号

傷　1966年　『ガロ』９月号

カサグレ　1967年　『ガロ』12月号

サエサ　　1968年　『ガロ』２月号

キク無惨（むざん）　1967年　『ガロ』4月号

ゴ ン　　1967年　『ガロ』8月号

捕捉　1969年　『ガロ』 3月号

飢饉　1969年　『ガロ』1月号

対　立　　1968年　『ガロ』 1月号

草加竜之進（くさかりゅうのしん）　1967年　『ガロ』11月号

木の間党　1968年　『ガロ』７月号

梵天祭り　1968年　『ガロ』9月号

内紛　1967年　『ガロ』10月号

鬼　女　　1968年　「ガロ」8月号

最期　1969年　『ガロ』8月号

橘一馬　　1968年　『ガロ』6月号

音丸変化（おとまるへんげ）　1969年　『ガロ』7月号

ナ　ナ　　1969年　『ガロ』４月号

笹一角　　1968年　〝ガロ〟4月号

陰の男　1970年　ガロ　2月号

変　装　　1969年　『ガロ』9月号

逃散　　1969年　『ガロ』6月号

談　判　　1970年　『ガロ』8月号

犠　牲　　1971年　『ガロ』 2月号

阻　止　　1970年　『ガロ』5月号

弥助　.969年　ガロ　11月号

城代家老　　1969年　『ガロ』5月号

叫合　1969年　〝ガロ　12月号

クズレ　1969年　〝ガロ　10月号

闘争　1971年　ガロ　1月号

斬殺　1970年　『ガロ』9月号

正助　1971年　ガロ　3月号

大白州（おおしらす）　1971年　『ガロ』５月号

横目（よこめ）　1970年　『ガロ』4月号

無人流(むにりゅう)　1970年　『ガロ』 6 月号

群　像　　1970年　　ガロ　7月号

陰衆　　1970年　　ガロ　10月号

蜂起　1970年　『ガロ』12月号

怪　異　　1970年　「ガロ」11月号

拷問　1971年　ガロ　4月号

寝地蔵　　1968年　『ガロ』12月号

梟首　1971年　『ガロ』6月号

ダンズリ　　1971年『ガロ』5月号

代　官　　1970年『ガロ』9月号

笹一角(草加竜之進)　1970年『ガロ』5月号

松葉編也斎　1966年「ガロ」9月号

カンダチ　　1970年「ガロ」10月号

アテナ　　1970年『ガロ』6月号

アケミ　　1967年『ガロ』5月号

武士の線　　1968年　『ガロ』6月号

欲　　　1971年『ガロ』3月号

薙刀　　1970年『ガロ』8月号

保　母　　1970年『ガロ』3月号

惨死　1971年『ガロ』

木の間党首　1968年 「ガロ」7月号

静　寂　　　1969年「ガロ」10月号

拷責（ごうせき）　1968年『ガロ』2月号

クシロ　　1971年「ガロ」7月号

見参（ざん）　1968年『ガロ』1月号

錦丹波　1971年「ガロ」4月号

古老

夢々道人（むむどうにん）　1967年『ガロ』1月号

サエサ　　1969年「ガロ」5月号

山伏（やまぶし）　1971年『ガロ』1月号

水無月右近（みなづきうこん）　1967年『ガロ』11月号

親　子　1968年「ガロ」7月号

石焼き料理をかこむひととき。左から二人目が白土先生。

ってしまうという。

犬なんかも顔にシワを寄せて怒っているときは、自分も人間をこわがっているときだから、視線をはずしてこちらのスキをあたえると、くるっとむこうを向いて去ってしまう。だから、そういうことはあるかもしれないね」

こういうふうに相手の動物の心理や習性をよく知っていれば別だが、では、われわれがいざ熊と出会ったとき、はたして余裕をもって目をそらせられるかどうかということになると、もう心もとないかぎりだ。

「きょう、鹿に出会ったんだが、立ち止まっていてひょいと首をまわすと、そこに尾のところが白い鹿がこちらを向いてピョコンと立っている。緑のふわふわしたやわらかい苔が一面に生えているところで、足音にもちっとも気づかなかった。見ていたのもわずかのあいだだった。あれっと思ったときには、また足音もなく鹿の姿は消え去っていた。また、私の知人の猟師が、

「このまえは、水場のところを通りかかったら、水場のまわりのやわらかい泥土の上に、タバコの太さよりも一まわり大きい穴がポツポツといくつもあいている。はじめのうちはなんだろうと思ったものだが、それは雄鹿がその水場にからだをつけて、燃えるからだを冷やしながらあばれまわったあと、自分の性器をあっちこっちやたらに突き刺した跡だった」というようなことをいっていた。

われわれの何人が、ポツポツとあいた穴を見てそれと気づくだろう。

「鹿と出会ったところもそうだったけれども、苔が一面に生えているようなところには、ふつうはその上を踏んで歩いても落ちないから何もいないようだが、そういうところは下がうつろになっていたり、穴があったりして、そこによくテンなどがいて、人間の目なんかに触れないで生活している。その走るのを見ると、じつに信じられないくらい速い」

白土三平氏の話を聞いていると、山の動物の話ひとつをとっても、つぎからつぎへと話題が尽きない。

キノコの毒にあたる

テーマを変えて、うかがってみよう。

「このあたりでいま時分とれるキノコというといろいろあるが、中心はクリタケやナラタケだろうね。

あのヤマブシタケというキノコは立ち木に生えているのだが、ちょうど人間の背たけくらいのところから、ぶらさがるように下を向いて生えている。その感じが蓑(みの)をつけた山伏に似ているところから、この名がついたらしい」

キノコと聞けば、気になるのは、その毒性だ。

「闇夜では、桃色に見えるが、昼間明るい時に見ると、ただの黄色のように、見えるものもある。また、マイタケというおいしいキノコがあるが、昔は、マイタケは、その毒にあたると一晩中踊りを舞いつづけるというところからきているし、ワライタケもよく知られている」

そういう白土三平氏自身、キノコの毒にあたって全身がしびれ、肩がこったような状態になって苦しんだことがあるという。

「フグの毒にあたった漁師を見ているが、フグの毒もかなりすごい。

毒にあたったものが苦しんで、のたうちまわろうとするところを、そばのものたちが数人で無理やり押さえつけ、首だけを出して砂に埋める。

動くと全身に毒がまわるのでそれをふせぐためだが、そうしておいてこんどは、その口をこじあけて、人糞を押しこむ。本人は苦しいから、グエッ、グエッ、と吐く。また、汚物を手につかんで、口に押しこむ。本人は二重三重の苦しみだろうが、それが胃の中の毒をすばやく吐かせるためのもので、みんなしんけんなんだ」

白土三平氏は、山だけでなくときどき海へも行き、漁師にも漁師の生活にもなじみが深い。釣りにも明かるく、魚のことにもくわしいので、そっちのほうも大いにうかがいたいところだが、それらは白土三平氏を海へ訪ねる機会があったら、そのときのことにしよう。

それにしてもなんと幅広く、またそれぞれに奥行きがあるのだろう。しかもこれらの話は白土三平氏自身にすればおそらく、ほんの上べの断片のことにしかすぎないのだ。

赤裸な姿が作品に

白土三平氏が少しずつその裸の姿を見せはじめるのはここからさき、多くの断片を支える基盤のひとつひとつを、さらにより大きい基盤の上につぎつぎと築いていって、いよいよ作家として作品に向かいはじめるときなのだ。

そういう意味では、言ってみれば白土三平氏の赤裸の姿が現われるのは作品であり、その作品を読んでいるわれわれはその作品を読んだ分だけ、白土三平氏の赤裸の姿にすでに接していることにもなるのだ。

翌日は河原で山野料理の石焼きをやることになり、土地のひと数人をたのんで、河原へ向かった。この石焼きというもの、もちろんはじめてだが、なにしろ、それほど大がかりなものなのだ。

「もともとは狩人のもので、山で採った獲物を食器を使わず、手っとりばやく食べるための料理であったらしい。だから基本は、すべてそのときどきの山野のものだけを材料にするのが、ほんとうだ」

白土三平氏が、石焼きの由来を教えてくれた。

さいごに、白土三平氏に二、三うかがってみよう。

海と山とではどちらが好きなんでしょうか。

「両方とも好きだ。山には海にないものがあるし、海には山にないものがある。海では自分で船を運転してときどき釣りに出る」

では、山や海に出かけるのは仕事のためですか、それとも自分の趣味ですか。

「遊びがそのまま仕事に結びつくのがいちばんいいのだが、なかなかそうはいかない」

読者が待ち望んでいる『カムイ伝』の第二部、第三部は、いつごろできるのでしょうか。

「二部、三部の大きい構想はできているんだが、発表の時期はいまのところまったく未定なんだ」

それでは期待して待つことにしよう。

白土三平全作品完全リスト

年	作品名	頁数	完成月日	発表	発表誌	出版社
1957（昭和32年）	こがらし剣士	128		8月	ともえまんが	巴出版
	嵐の忍者①②③	各128			少年少女漫画	日本漫画社
	忍者街道①②	各128			〃	〃
	死神剣士①	128			〃	〃
	甲賀武芸帳①〜⑧	1030			〃	〃
1958（昭和33年）	からすの子				少年少女漫画	日本漫画社
	消え行く少女㊞㊕	各128			〃	〃
	死霊	128			〃	〃
	黄金色の花	128			〃	〃
1959（昭和34年）	鬼影城秘史	112		8月	忍者旋風	東邦漫画出版
	狼飛誕生	72	7月	〃	〃	〃
	鳥人			〃	〃	〃
	土佐衛門			〃	〃	〃
	蜘蛛丸	135	7月	〃	忍者人別帳	〃
	くの一の術	39	7月	〃	忍者旋風	〃
	幻妖めくらまし帳	37		〃	〃	〃
	仇討無惨帳	128			仇討無惨帳	〃
	仇討無情	32	9月		〃	〃
	四ッ身の術		9月		忍者人別帳	〃
	二人小僧	106			〃	〃
	風魔忍風伝①〜④	各192	10〜12月		忍者旋風	〃
	殺生小屋	22			〃	〃
	狐塚	64		10月	影法師	〃
	ある殺し屋の場合	32		12月	夜の眼	〃
	死刑執行	16		12月	〃	〃
	なわぬけ	32			忍者旋風	〃
	闇の斬剣	128			〃	〃
	犬をよぶ少女	45		12月	忍者人別帳	〃
	大上段絶命	32			大上段絶命	〃
	いささか感ずる所	32			〃	〃
	狼煙	30	11月		大旋風	すずらん出版
	忍者武芸帳①	256	12月	12月		三洋社
1960（昭和35年）	飛礫	32	1月		忍風	三洋社
	人身沼	40	1月		剣豪伝	〃
	雨を呼ぶ男	36	1月		大旋風	すずらん出版
	松虫	60	2月		〃	〃
	蟷螂	60	2月		忍者旋風	東邦漫画出版

鬼影城秘史

消えゆく少女

嵐の忍者

年	作品名	頁数	完成月日	発表	発表誌	出版社
1963（昭和38年）	陽忍	22	3月12日		少年サンデー	小学館
	二年ね太郎	128			小学二年生	〃
	鬼	28	4月	5月	ボーイズライフ	〃
	たまかぜ	22	5月18日		少年サンデー	〃
	山父	12	4月	6月	ボーイズライフ	〃
	無三四	36	6月1日	7月	〃	〃
	灰色熊の伝記(上)(下)	各152	6月6日・6月30日	1月・2月		青林堂
	野犬	36	7月	43年2月	ビッグコミック	小学館
	無名	26	7月		少年サンデー	〃
	七方出	34	7月20日		〃	〃
	妙活	24	8月		〃	〃
	異変	40	8月		忍法秘話	青林堂
	こげら	40	9月15日	10月	〃	〃
	スガルの死	24	9月20日		少年サンデー	小学館
	やまかし	49	10月15日	11月	忍法秘話	青林堂
	四貫目	33	10月24日	39年1月	少年増刊	光文社
	しじま	34	11月13日		少年ブック	集英社
	夢幻	40	11月21日	12月	忍法秘話	青林堂
	いしみつ	134	11・12月		少年サンデー	小学館
	くぐつ	18	12月18日		少年増刊	光文社
	一本やぐら	18	12月12日	39年1月	少年キング	少年画報社
1964（昭和39年）	紛忍	48	1月20日	1月	忍法秘話	青林堂
	やませ①②	各48	1月・2月	3月・4月	〃	〃
	サスケ⑨〜⑫	788	3・6・9・12月		少年	光文社
	目無し①〜④	108	4・7・8月		忍法秘話	青林堂
	犬万	32	5月13日		冒険王	秋田書店
	大咬	33	6月14日		少年増刊	光文社
	真田剣流第2部	226	7〜12月		少年ブック	集英社
	カムイ伝①〜⑤	491	9〜12月	12月	ガロ	青林堂
	因童	33	11月	40年1月	少年増刊	光文社
1965（昭和40年）	ガロの復活	32	1月14日	1月	忍法秘話	青林堂
	真田剣流第2部	160	1〜2月		少年ブック	集英社
	カムイ伝⑥〜⑮	971	1〜11月		ガロ	青林堂
	他心通	38	2月2日	4月	忍法秘話	〃
	キバチ	32	3月5日	3月	〃	〃
	ワタリ一部①〜㊸	646	3〜12月		少年マガジン	講談社
	言霊	24	3月26日	5月	忍法秘話	青林堂
	ガロの宿	32	3月31日	6月	〃	〃
	カムイ外伝①〜⑪	320	4〜12月		少年サンデー	小学館
	サスケ⑬〜⑮	496	5〜10月		少年	光文社
	無風伝①〜③	120	6〜7月		忍法秘話	青林堂
	風魔①〜⑤	178	7〜12月		少年ブック	集英社
	赤目の大事	32	7月17日		少年キング	少年画報社
	遠当	31	11月20日	41年1月	少年サンデー	小学館
1966（昭和41年）	カムイ伝⑯〜㉘	1398	1〜12月		ガロ	青林堂
	風魔⑥〜⑪	192	1〜2月		少年ブック	集英社
	ワタリ二部㊹〜79	540	3〜8月		少年マガジン	講談社
	カムイ外伝⑫〜⑳	279	4〜11月		少年サンデー	小学館

カムイ外伝

ワタリ

灰色熊の伝記

死神少年キム

1960（昭和35年）	仇				ハイスピード	三洋社
	忍者武芸帳②	208	2月			〃
	一乗寺藪下り	45	3月		影法師	東邦漫画出版
	羽衣	84	3月		忍風	三洋社
	変身	34	3月		〃	〃
	忍者武芸帳③	192	4月			〃
	竜震	66	4月		忍者人別帳	東邦漫画出版
	伝火矢才蔵	110	5月		〃	〃
	奇剣崩し	48	6月		〃	〃
	忍者武芸帳④	202	6月			三洋社
	〃⑤	152	6月			〃
	〃⑥	160	10月			〃
	風の石丸①	143	11月15日	10月	少年マガジン	講談社
	〃②	135		12月	〃	〃
	掟	34	11月22日		少年増刊	〃
	忍者武芸帳⑦	152	12月	12月		三洋社
	風魔忍風伝⑤	140			忍者旋風	東邦漫画出版
	真剣白刃砕き	48			〃	〃
	十蔵岩	29			怪談	ひばり書房
1961（昭和36年）	風の石丸③	151		2月	少年マガジン	講談社
	忍者武芸帳⑧	160	2月15日	2月		三洋社
	〃⑨	168	3月			〃
	〃⑩	128	3月26日			〃
	〃⑪	144	4月10日			〃
	剣風記	120	5月			東邦漫画出版
	狼小僧	370	5〜8月		ぼくら	講談社
	赤目（第1部）	68	6月		怪談	ひばり書房
	忍者武芸帳⑫	160	7月26日			三洋社
	真田剣流①	135	9月27日	10月	忍者旋風	東邦漫画出版
	忍者武芸帳⑬	192	11月1日			三洋社
	寄生木	33	12月23日		少年増刊	光文社
	赤目（第2部）	118	12月28日		怪談	ひばり書房
	サスケ①	251	12月		少年	光文社
	シートン動物記①	134	12月	4月 6月		東邦漫画出版
1962（昭和37年）	真田剣流②	144	1月	3月	忍者旋風	東邦漫画出版
	忍者武芸帳⑭	200	3月29日			三洋社
	サスケ②③④	660	5・6・10月		少年	光文社
	忍者武芸帳⑮	192	5月21日			三洋社
	シートン動物記②	138		6月		東邦漫画出版
	赤い竹	33	6月25日		少年	光文社
	忍者武芸帳⑯上	160	9月14日			東邦漫画出版
	少年王者①②	各112		3月 10月		〃
	神隠し	66	9月		掟	青林堂
	忍者武芸帳⑯下	160	10月19日	11月		東邦漫画出版
	傀儡がえし	33	11月17日		少年	光文社
1963（昭和38年）	死神少年キム①②	248		3月 7月		東邦漫画出版
	サスケ⑤〜⑧	878	2・5・9・11月		少年	光文社
	ざしきわらし	36	2月11日	3月	ボーイズライフ	小学館
	戦争	36	3月	4月	〃	〃
	幻の犬	18	3月		少年増刊	光文社

サスケ　　真田剣流　　赤目

狼小僧

忍者武芸帳

1967	カムイ伝㉙〜㊴	788	1〜11月		ガロ	青林堂
	ワタリ三部(80)〜(110)		1〜6月		少年マガジン	講談社
1968	カムイ伝㊵〜㊽	529	1〜11月		ガロ	青林堂
	孤島の出来事	32	2月24日	6月	ビッグコミック	小学館
	釣	48	4月27日	7月	〃	〃
1969	カムイ伝㊾〜(59)	376	1〜12月		ガロ	青林堂
1970	カムイ伝(60)〜(69)		1〜10月		ガロ	青林堂
1971	カムイ伝(70)〜(74)		1〜3月		ガロ	青林堂
1972						
1973						
1974	ワタカ		5月	53・5月	ビッグゴールド	小学館
	ナータ		10月	50・5月	ビッグコミック	〃
	サバンナ①（前）		12月	50・6月	〃	〃
1975（昭和50年）	サバンナ①（後）		2月	50・6月	ビッグコミック	小学館
	サバンナ②		4月	50・7月	〃	〃
	サバンナ③（前）		5月	〃	〃	〃
	サバンナ③（中）（上）		6月	50・8月	〃	〃
	サバンナ③（中）（下）		〃	〃	〃	〃
	サバンナ③（後）（上）		7月	50・9月	〃	〃
	サバンナ③（後）（下）		〃	〃	〃	〃
	イオ①		〃	50・10月	〃	〃
	イオ②③		〃	50・11月	〃	〃
	イオ④⑤		〃	50・12月	〃	〃
	ペンテウス①		9月	51・1月	〃	〃
	ペンテウス②		〃	51・2月	〃	〃
	ペンテウス③		〃	51・3月	〃	〃
	ペンテウス④（上）		〃	〃	〃	〃
	ペンテウス④（中）（下）		10月	51・4月	〃	〃
	ペンテウス⑤		〃	51・5月	〃	〃
	ペンテウス⑥		〃	51・6月	〃	〃
	野牛の歌（前）		〃	51・7月	〃	〃
	野牛の歌（後）		〃	51・8月	〃	〃
	大熊の星（前）		〃	〃	〃	〃
	大熊の星（後）		〃	51・9月	〃	〃
1976	ドラ（前）		8月	9月	ビッグコミック	小学館
	ドラ（後）		〃	10月	〃	〃
	バッコス①〜⑩		〃〜12月	連載中	〃	〃
1977	バッコス⑪〜㉖		1月〜12月	〃	ビッグコミック	小学館
1978	バッコス㉗〜		1月〜	〃	ビッグコミック	小学館

※完成月日欄、発表欄の空白は完成月日、発表月不明のため。発表誌の空欄は単行本の意味です。

サバンナ

ペンテウス

ナータ

風魔

「航海」

●白土三平

いまやっと「カムイ伝」三部作のうち、第一部が終わったところだ。

しかし物語の真のテーマは、いまだに現われていない。なんと不可解なことであろう。

たいして長くない航海ではあったが、船はその船体にもまた機関部にも、さまざまな傷や付着物を受け、その機能はまひ寸前の状態で、とある入江に停泊している。

機関部の破損箇所を見つけて修理し、船足を遅らせるフジツボやカキをかき落とし、亀裂を埋め、再度の風と波の第二の航海を前に、中古船は深い吐息をついている。

だがいずれ大海に、このボロ船の姿を見ることがあるだろう。

たとえどのような嵐にも、この船は沈むわけにはいかない。もしマストを折られカジをもぎとられ、浸水する水をかき出しながらでも、船は進まねばならないのだ。なぜならば、船にはたいせつなもの（乗客）を乗せているのだから。しかしこの船がどこへ着くか、乗船者もそして舵手さえ、予測することはできない。

だがとにかく第二部においては、物語は再び動物の世界へともどることになる。そしてあの白い狼カムイと我々は、再会しなければならない。そこで彼及びその仲間は、何を我々に語りかけて来るのだろうか？（1971年3月　カムイ伝　後記より）

小学館ボニマージュ

SHOGAKUKAN BONNE IMAGE

ビッグデラックス　画集・カムイ伝

定価680円　著者／白土三平　発行者／小西湧之助

昭和53年12月15日発行

発行所／小学館　〒101　東京都千代田区一ツ橋２－３－１

販売☎東京03－230－5735　編集☎東京03－230－5481　製作☎東京03－230－5333

印刷所／大日本印刷株式会社Printed in Japan

表紙装丁／玉井ヒロテル　デザイン／鈴木邦治　協力／銀杏社